

# 礼に始まり礼に終わる

## ーパフォーマンスで終わらない礼ー

1 学 年 第9学年〔後期〕

2 主題名 礼儀・礼節 〔2－（1）〕

3 ねらい

主人公「武」の道場で行った6回の礼を通して、礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動を行おうとする実践意欲を育てる。

4 資料名 「礼に始まり礼に終わる」

5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 DVDで剣道の試合を視聴する。 ○ 剣道の試合を見て、かっこいいと思うところはどこですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 声</li> <li>・ 面が決まったところ</li> <li>・ 胴着</li> <li>・ 礼</li> </ul>	○ 実際の剣道の試合を視聴させて、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「礼に始まり礼に終わる」を読んで考える。 ○ 授業の最初の礼の後、「武」が机に伏せたのはどうしてでしょう。 ○ 「武」は「ダリウス先生」に叱られなかったことについてどう思ったでしょう。 ◎ 「武」が黙想の後にした6回の礼には、どういう思いが込められているのでしょうか。 3 日常生活の中での経験を話し合う。 ○ 他者の礼儀作法に触れ、気持ちよかったと思ったり感動したりした経験を発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習で疲れているから、授業では休みたい。</li> <li>・ 授業が余計な時間に思えたから。</li> <li>・ 剣道の練習を優先したいから。</li> <li>・ どうして怒られなかったんだろう。</li> <li>・ 先生は普段の自分を知っているから、あいさつの大切さに気付かせようとしてくれたんだ。</li> <li>・ 決勝の相手や「ダリウス先生」、後輩、「由美」、クラスの生徒に申し訳ない。</li> <li>・ 自分ができなかった相手のことを考えて礼をしよう。</li> <li>・ これからは自分のことだけでなく、相手のことも考え、挨拶や行動したい。</li> <li>・ 授業の礼をきちんとしたとき、気持ちがよかった。</li> <li>・ クラブの試合で最後にした礼が見ていてかっこよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 剣道だけを優先する「武」の気持ちをおさえる。</li> <li>○ あいさつは「する側」と「受ける側」の両方の気持ちがあることをおさえる。</li> <li>○ 6回の礼は何（誰）に対して、どんな心をこめて行ったものか考えさせることで、相手への敬意の気持ちや礼儀の意味についても理解を深めさせたい。</li> <li>○ 「授業の礼は誰に対してするものか」等、その行為が誰に 対するものか、話し合いにより考えさせる。</li> </ul>
終 末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分がどんな状況でも、相手を敬う気持ちを忘れず、人に気持ちよく接していきたい。</li> </ul>	○ 「心のノート」(P. 38～39)を活用するのもよい。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

中学生の時期は、礼儀の大切さについて理解し、言葉遣いや行動の仕方もある程度身に付きつつあるが、十分習慣化しているとは言えない場面も見受けられる。また、従来からのしきたりや形に反発する傾向が強くなったり、照れる気持ちやその場の状況に左右されたりすることによって、形だけの礼しかできないケースが見られることもある。

そこで、指導に当たっては、「武」の6回行った礼を通して、時と場に応じた適切な言動を学習するとともに、形の根底に流れるその意義を深く理解できるようにする。時と場に応じた適切な言葉遣いや行動がとれるよう、特に内面的な指導を重視したい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 活用時期

第8学年でのキャリアスタートウィークは、礼儀作法や行儀作法について学ぶことができる貴重な社会体験の場である。その体験の前後に扱い、関連させるとよい。

#### イ 中心場面の取扱いの工夫

「武」が「ダリウス先生」とのやりとりの後で、道場で黙想を行った後に、暗闇に向かって静かに深い礼を6回した場面が中心場面である。その6回の礼の内容を次の補助発問で1つ1つ考えさせたい。6回の礼は次のようなものが考えられる。

○「6回の礼の相手は誰でしょう。」「その礼はどんな気持ちをこめた礼でしょう。」

- ・ 「市総体で負けた相手」→「打ち負かした相手への敬意」
- ・ 「試合で応援してくれた人たち」→「応援してくれた人への感謝の気持ち」
- ・ 「由美や後輩」→「一緒にがんばってくれたことへの感謝の気持ち」
- ・ 「ダリウス先生」→「謝罪と指導への感謝の気持ち」
- ・ 「道場」→「練習をさせてもらっていることへの感謝の気持ち」
- ・ 「次の対戦相手」→「対戦相手への敬意」

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入の工夫

導入では、剣道の試合のDVDを見せて剣道から受けた印象を自由に発言させることにより、資料への興味付けを行いたい。

#### イ 補助発問の工夫

パフォーマンスではない礼について考える場面において、「きちんと礼だけすればそれでよいのか。」等の発問を行い、礼儀の基本である相手に対して敬愛する気持ちに気付かせ、ねらいとする価値にせまらせたい。

#### ウ 心のノートの活用

授業の礼を終えた後に伏せて授業に参加しなかった「武」を、「心のノート」P.38の「礼儀知らずは恥知らず？」というタイトルと重ね、ねらいとする価値について深く考えさせたい。

執筆者より

「礼はパフォーマンスなんですか。」という言葉は、ダリウス先生の実際の言葉である。あいさつは意識してないと、儀式的なやりとりになってしまいがちである。剣道には、「礼に始まり礼に終わる」という言葉がある。日本に残る伝統的な礼儀作法の本来の意味を考え、あいさつに込められた「心」について考えさせたい。

(呉中央中学校 森脇 哲久)